

新春後援会だより



向川 静孝

〒939-1535

南砺市石田48

TEL 22-2084

平成28年元旦

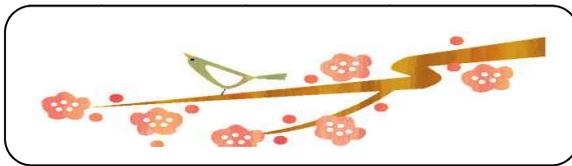


日頃より後援会の活動に多大なご指導ご支援を賜り感謝申し上げます。

「おかげさま」の気持ちを大切に、謙虚な気持ちで皆様の負託に応えられますよう誠心誠意努めてまいり所存です。何とぞご指導ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

皆様のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。後援会だよりをもって新年のご挨拶とさせていただきます。

敬具



12月定例議会で新役員決まる

- ・ 議長…川邊邦明 ・ 副議長…向川静孝
- ・ 総務文教常任委員長…榊 祐人
- ・ 民生病院常任委員長…山本勝徳
- ・ 産業建設常任委員長…赤池伸彦

向川静孝の所属委員会等

- ・ 産業建設常任委員会委員
- ・ 広報広聴特別委員会委員
- ・ 観光・公共交通等対策特別委員
- ・ 議会改革特別委員会理事
- ・ 議会役員
- ・ 砺波地方衛生施設組合議会議員
- ・ 砺波地域消防組合議会議員
- ・ 国民健康保険運営協議会委員

1、「人口減少、少子高齢化の現状」

(1) 南砺市の人口 (外国人を除く)

平成 16 年 11 月 1 日…59,230 人 (南砺市合併時)

平成 27 年 11 月末…52,530 人

合併以来 11 年間で 6,700 人減少 (年平均約 600 人減少)



南砺市合併以後の 10 年間で、1 割も減少した !

・ 高齢化率 (65 歳以上の人口比)…35.36%

全国平均 26% (26 年 10 月時点)

1~4 歳の子どもは団塊
の世代の 1/3 に減少

・ 団塊の世代と子ども (1~4 歳) の年齢別人口 (外国人を除く)

・ 年齢別人口 (1~4 歳)

1 歳…318 人

2 歳…357 人

3 歳…342 人

4 歳…326 人



・ 年齢別人口 (65~68 歳)

65 歳…1,056 人

66 歳…1,072 人

67 歳…1,155 人

68 歳…1,200 人



(2) 南砺市の世帯数 (外国人を除く)

平成 16 年 11 月 1 日…17,175 (南砺市合併時)

平成 27 年 11 月末日…17,388

南砺市合併以後、213 世帯増加した !

・ 1 世帯の平均家族数…3 人

核家族化の進行

2、「南砺市人口ビジョン」が策定される

南砺市人口ビジョンの対象期間…2015 年~2060 年

「人口減少時代の到来」により地域経済社会へのマイナス影響が想定されるなか、人口の現状を分析するとともに、今後の目指すべき方向性を示したもの。

<南砺市の将来人口推計>

国立社会保障・人口問題研究所の人口推計では、このまま何も対策を講じなかった場合の南砺市の人口予想

2040 年には現在の人口の 6 割程度…34,858 人

2060 年には現在の人口の 4 割程度…23,554 人

人口減少が将来に与える影響

(1) 地域生活への影響

一定規模の人口を前提として成り立っている小売や飲食、医療などの住民サービスが地域から撤退することで日常生活が不便になります。日常生活が不便になることでさらに人口が流出するという悪循環に陥る可能性も考えられます。また、地域の担い手不足や空き家の増加も地域生活に影響を与えます。

(2) 地域経済への影響

生産年齢人口の減少により就業人口が減少し、各業種で労働力不足が発生します。労働力不足により産業の成長力が阻害され、市全体の経済成長が鈍化することが考えられます。また、人口減少により個人消費が縮小することによる地域経済の悪化も懸念されます。

(3) 財政面への影響

人口が減少することで、市民税は減少します。一方、高齢化率は高くなり「医療、介護、老人福祉費」などの扶助費が増加します。このことにより、市財政の硬直化を招き、ほかの世代が必要な行政サービスを受けられなくなる可能性が考えられます。

3、南砺市の人口ビジョン目標

①「目標人口」

目標設定の基本的方向の実現項目

- (1) 出生率の向上
- (2) 進学で転出した若者のUターンを促進する
- (3) 多世代同居を進め、結婚や出生による転出を食い止める
- (4) 就業者の市内居住を進め、就職による転出を食い止める
- (5) 移住や定住を進める

2060年に

30,000人を目指す

(人口推計より6,500人増)

②「貢献市民」の将来目標

2060年に

5,000人を見込む

貢献市民とは

市外に居住しながら、南砺市に想いを馳せ、祭り・草刈・雪下ろし・各種イベント、里山倶楽部、ふるさと納税などに参加、協力する人を「貢献市民」として位置づける。貢献市民には第二の市民に認定し「第二住民票」を交付する。

4、「南砺幸せなまちづくり創生総合戦略」が議決された

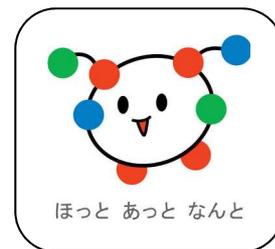
南砺市人口ビジョンで設定した将来目標人口に向かって、
2015年度から2019年度までの5年間に取り組む目標と施策

【事業内容】

- ①結婚・出産・子育て・教育の支援
- ②地域共助の確立
- ③若者と女性が活躍できる環境の整備
- ④中小企業活性化、創造型産業構築
- ⑤地域の伝統資源の活用、ブランド商品開発
- ⑥地域コミュニティの堅持
- ⑦循環社会と新たなライフスタイルの構築
- ⑧行財政効率化の推進
- ⑨ひとと出会い、ひとを呼び込む
- ⑩交流人口・貢献市民の拡大
- ⑪大学、民間企業等との連携の推進

5年間の事業概要

94事業
事業予算 34億円



5、「公共施設等総合管理計画」が策定された

8つの町村が合併して誕生した南砺市は、非常に多くの公共施設があり、このまますべての施設を維持管理していくことは、人口や財政の状況から見て不可能な状況です。30年後の孫やひ孫たちのために、適正な規模の施設保有や均衡のとれた財政運営を目指さなければなりません。このようなことから公共施設の管理計画が策定された。

【基本的な方針】

厳しい財政状況が続く中で、今後、人口減少、少子高齢化等により公共施設の利用需要が変化していくことをふまえ、公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点で、更新、統廃合、長寿命化などを計画的に行い、将来へ持続可能な行政運営のために「身の丈にあった」公共施設等保有量への転換をはかる。

【計画期間】

2015年度～2044年度（30年間）

【財政シミュレーション】

現状の公共施設を30年後に半分程度まで縮減することで、財政を均衡させる。

縮減方法は

(A：民営化、B：統廃合、C：民間譲渡、D：廃止解体)

公共施設の再編は
市民の生活に直結
する身近な問題で
す。
みんなで考えよう

6、公共施設再編計画の策定スケジュール

平成27年10月に開催された第1回目の地域審議会と住民説明会の意見を踏まえ、公共施設再編計画の素案を作成。今後、第2回目の地域審議会と住民説明会の意見を受けて「公共施設再編計画（案）」が策定され、平成28年3月議会に上程される予定